

**札幌新まちづくり計画市民会議
経済・雇用分科会第3回会議概要録**

日 時 平成16年2月4日(水) 18:00～20:30

場 所 リンケージプラザ 2階 第1研修室

出席者 内田和男 会長 ・ 平本健太 副会長
高田悦子 委員 ・ 工藤仁美 委員 ・ 田村丈生 委員
(欠席: 荒 紀男 委員)

次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
(1) 今後の分科会の進め方
(2) 事務局説明(資料「ビジョン編に向けての市の素案」)
(3) 意見交換
- 3 閉 会

議事の概要

最初に、今後の議論の進め方について内田会長より説明があり、それに基づき意見交換が行われた。

続いて、事務局から資料1「ビジョン編 構成イメージ」及び資料2「ビジョン編に向けての市の素案」についての説明の後、これらをもとに意見交換が行われた。

意見交換の概要

市民会議の位置づけについての確認

- Q 市の審議会との関係性の中で、この会議の位置づけはどうか。
(高田委員)
- A 今回のこの新まちづくり計画の市民会議は、どういうビジョンで今後3年間のまちづくりを進めていくのか、この3年間で何を重視してやっていったらいいか、そういうことを議論していただく場になる。個別の審議会でも具体的なことについて専門的な議論がされてくるので、2つの会議間の情報交換を行い、その整合性を図りながら進めていきたい。(事務局)
- A 審議会ではコンクリートな議論になりがちなので、市民のもっと幅広い意見を聞きたいというのが一番の趣旨だと思う。そういう形で我々の役割は考えればいいのではないかと。むしろ、審議会であまり議論しないようなところを提示できればいい。(内田会長)
- ・ 概略的な提言にとどまるのであれば、結局また変わらない。この市民会議でもっと個別具体的に提言してもいいのではないかと。そうしないと、各部局にも伝わらない。(田村委員)
- Q 道も同じような施策を展開しているが、道との関係はどう整理すべきか。連携をとっていく必要があると思う。(高田委員)
- A それは必要不可欠なことなので、経済・雇用という枠にとらわれず、市民会議の意見として別項目立てで提言すべきと思う。(内田会長)
- A 例えば、バイオ産業の振興の事業などについては、道、経産局、開発局、それから、国の機関なども連携をとって進めている。ただ、これはひとつの分野で始まったところであり、依然として道との連携については大きな課題である。(事務局)

「ビジョン編に向けての市の素案」について

全体を通して

- ・ 我々がどういう方向に向かっていって、何を作りたいのか、どうしたいのかということが見えるような、5つの基本目標を括る大きなキャッチコピー、キャッチフレーズが必要ではないか。(平本副会長)
 - ・ 素案の全体の描きかたについて、箱と矢印を用いるなどして、それぞれの因果関係がわかるようにしたほうがいい。(平本副会長)
- Q 実践の段階までの手法はもうできているのだろうか。(高田委員)
- A ビジョン編をしっかり固めたうえで、その後ビジョン編に合う重点事業を組み立てていく。重点事業編は春から夏にかけて市のほうで作っていく予定になっている。(事務局)
- ・ 最後の成果指標の中でアジア地域への輸出額が35億と倍になっているが、例えば中国ではオリンピックがあるので、業種ごとに情報の整理・キャッチなどをするといいことをスピード感を持ってやっていかなければならない。(高田委員)

「望ましい街の姿」について

- ・ 「望ましい街の姿」のなかで、女性の働く場の改善ということをもっと積極的に言ってもいいのではないか。女性の参画ということに対する認識をもっと強く意識したほうがいい。無理やり審議会などに女性を入れるのではなくて、自然に女性が社会に参加できるような仕組みを考えていくということ、具体的にやっているところは意外と少ない。（内田会長）
- ・ 女性の立場としては、女性という言葉を入れてほしいところだが、男女共同という形で多様な就労の機会があるという最も違和感がないような気がする。（高田委員）
- ・ 雇用の問題に関して、生活保護や母子家庭の問題も含めて、就労の場がないので、そのあたりの記述も少し入れていただきたい。（高田委員）
- ・ 「国内・海外からの多くの観光客が訪れるとともに」という部分に関して、観光客だけではなくて、定住する外国人が増えないと他の経済活動にも発展していかないと思うので、そういう部分も入れていただきたい。（田村委員）
- ・ 観光がひとつの柱となっていることに関して、観光客が頻繁に訪れるということが地域経済の活性化に結びつくというのとは別に、「国際都市」というようなイメージもあると思う。（工藤委員）
- ・ 生き生きと働ける街、起業にチャレンジできるまちであるとともに、失敗したときのセーフティネットがきちんとあるというその2本立てがあって初めていいまちになると思う。（工藤委員）
- ・ 「観光」という定義しだいでは産業の柱のひとつになることもありうる。ただ、それは札幌というまちをどういうまちにしたいのかという根幹の部分に関わってくる。（平本副会長）
- ・ 「望ましい街の姿」は観光とコンベンションを2本の柱立てによって集客交流都市を目指すという理想像が根底にあるので、その両方の文脈で書き表した。実際に札幌コンベンションセンターには学会などで、世界中から人々が訪れている。そこでの交流、将来の子どもに向けた情報発信が、新しい文化なり、子どもたちの育成につながり、まちに活気が満ちていくのであろうという思いで書いている。（事務局）
- ・ 工藤委員の意見に関して、安心して働けるまちということが基本目標に載っているが、それに対応する記述が望ましい街の姿のところがない。そのパートが少し加筆される必要がある。（内田会長）
- ・ 「安心」という言葉を入れるのであれば、この前の全体会議の時に出ていた「安全」という言葉、それと「国際都市」という3つを入れていただけるとありがたい。（高田委員）
- ・ 「安全」には、もっと広いまち全体での安全という意味合いがある。他の分科会で入れてもらえるといいが、それがないとすると、これをまとめるもっと大きいまちの像が必要なのかもしれない。それぞれのところに共通しているキーワードで全体を推しておくと作業はしておかないといけない。（内田会長）

「重点戦略課題」について

- Q 長期目標である望ましい街の姿に対して、重点戦略課題というのは、3年以内のスパンでできることを重点的に掲げるとい趣旨か。（平本副会長）
- A 重点戦略課題は今後3年間何を重視してやっていくかということ。そして、各重点戦略課題ごとに記述されている戦略目標は3年後ということではなくて、理想的な社会はどのようなものかということを示してある。（事務局）
- ・ 望ましい姿は本当に長期安定的な現時点で描く姿。その長期の姿を項目別に分けているのが、（仮称）戦略目標。そういう意味で、基本目標、望ましい姿、そして、それ

それぞれの細分化した戦略目標と並べたほうが分かりやすいし、誤解を招かないのではないか。それを受けて、重点戦略課題が次から並んでいくという形にしてはどうか。（内田会長）

- ・ 重点戦略課題のくくり方について、例えば「つくる」「はたらく」「さかえる」というような成長のプロセスや発展のプロセスが見えるようなストーリー性を持たせるといいのかもしれない。「何でこう並んでいるの」と聞かれた時にそういうプリンシプルがあると、説得力を持つ。（平本副会長）

「各主体の主な役割」について

- ・ 一委員としての意見だが、各主体の主な役割というものを書いて限定してしまうことには疑問がある。役割を限定してしまうと活力がそがれてしまう。今多くの人があるいろいろなことをやりたがっている。多様性を認める世界を作っていくことがこれからの一番大事なことで、役割を押し付けるということはこれからはできない。（内田会長）
- ・ 望ましい状態を皆で共有して、それに向かってどんなことができるか考えようという趣旨だが、それによってかえって役割が固定化されてしまうということは私たちとしても本意ではない。（事務局）

「分科会での主な議論」について

- ・ まとめ方は少々大味という気がする。もう少し細やかにまとめたほうがいいのではないか。（高田委員）
- Q ここでの意見交換が提言書にまとまるのだろうか。その作業は市で行うのか。また、フォーマットはこの素案に基づくのだろうか。（田村委員）
- A まとめは市にさせていただくが、フォーマットは我々のほうでこういうほうがいいのかという形のものを設けることは可能。それがどう組み込まれるかは最終的には市のほうで考えるという形になる。（内田会長）

分科会の報告、提言の形式について

- ・ 我々もこの活動に対して責任を持たなければいけないので、それこそ名前を入れてもいいぐらいの物にすべき。そう考えた時に意見をまとめられたり、省かれたりすることには納得できないので、きちんと我々の意見が別冊であり、市のものと対比できる必要がある。（田村委員）
 - ・ 分科会での意見をこちらでまとめるのは、時間的にもなかなか難しい。我々の意見がどう反映されたかということを確認したいということになれば、この「分科会での主な議論」を修正し、例えば修正した個所がアンダーラインやゴシック体で書かれる形になるというのが折衷案になるかと思う。（内田会長）
- Q ここに載っているものに対しては補足はあるが、自分が発言したことは表現されている。ただ、この間の全体会議の時に配られた資料のなかに行政サービスのアウトソーシングを進めるということが書かれていたのに驚いた。こういう話は分科会では出ていなかったはずだが。（工藤委員）
- A それは我々のなかでは議論していないので、フライングだった。もし、行政サービスのアウトソーシングをいうのであれば、市の財政が非常に逼迫しているなかで、このまちづくりというものをどういう風にしていったらいいのかということはどこかで議論しなければいけない。それは、ここだけの問題ではなくて、全ての分科会に共通す

ることになる。ただ、最初にあれだけ市の財政状況に関する議論があったにもかかわらず、今回の全体会議ではどこからもそのことに触れた提言がなかった。むしろ市の財政を圧迫するような形の事業をやらざるを得なくなる可能性がたくさんある提言になっていた。（内田会長）

Q 市の持つ土地の問題といったことまでこの会議が議論すべきかどうか。また、プラス思考だけではなくて、負の遺産についてどう考えるべきか。（高田委員）

A 別に市長が設けた市民会議があるので、そこで議論がなされる可能性が高い。市の計画に関する優先順位をどうするか、そこにもれているものがないか、そういう点をチェックするのが、この新まちづくり計画の我々の役目だと理解している。（内田会長）

- ・ 資料について修正すべき部分を委員個人個人で考えて羅列して、それを市の方にお渡しして整理してもらい、次回皆で「選択しよう」とか「選択しない」という議論をしたほうが、市が作った提言書とは別の1冊の提言書ができるのではないか。（田村委員）

まとめ

- ・ 基本目標は我々の宿題なので、事務局でやる必要はない。2番目の望ましい街の姿に関しては市のほうで修文していただき、それを我々がよしとすれば、我々の案として認める。個別のところに関しては、分け方についてはこれでいいのかどうかについては議論がなかったので、今の段階ではこの分け方そのもの自体には大きな問題はないと理解する。それぞれのページにある具体的な施策の部分は、ここをこういう形にしたいという自分の意見を次回までに事務局に出していただく。事務局にはそれをそのまままとめる作業をしてもらう。そして、出てきたものは個人の意見なので、それが分科会の意見としていいのかどうかはまたここで議論する。（内田会長）